

MH 30 による人参の抽苔抑制

吉村邦敏*・古田勝巳*

YOSHIMURA, K. & FURUTA, K. Inhibition of Carrot Bolting with MH 30

人参の端境期は九州で5月と8月9月にあらわれるが、5月の端境期は低温感応の鈍感な欧州系の人参を晩秋蒔するか、晩抽苔品種の貯蔵人参によつて解決されると思われる。近年 MH 30 によつて玉葱、馬鈴薯の萌芽抑制、或いは蔬菜の抽苔抑制に用いられているので、夏蒔の貯蔵人参に散布し、濃度と品種間について試験を行つたが、その成績の概要を報告する。

試験方法及び材料 MH 30 は日産化学工業のジェタノールアミノ塩 30%含有のもの、成分量が 0.05, 0.1, 0.25, 0.5%の濃度のものを、噴霧器で地上部に反当り6斗の割で散布した。供試品種は札幌太、国分鮮紅大長、中村鮮紅太、大型5寸を用い、8月25日に播種し3月31日に上記の濃度を散布した。調査は抽苔初め4月10日より4日毎に、苔が伸長して外部的に抽苔したと認められるものを抜取りその数を測定した。調査は5月12日に打ち切り、その時未抽苔のもの

について、収穫調査を行つた。

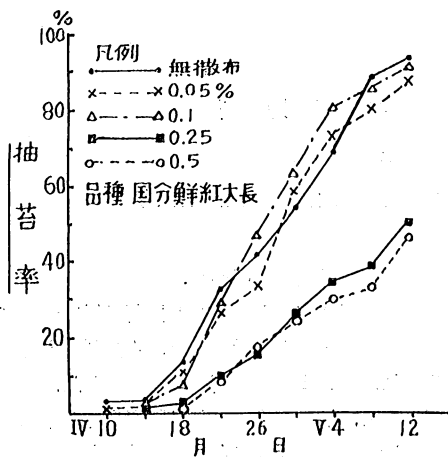
試験結果及び考察 1) 抽苔の抑制効果について、生育及び抽苔状況を表で示めた。4品種とも程度の差こそあれ、MH 30 の抑制効果は認められ、特に無散布区の中で、抽苔が晚かつた品種程良好な結果が得られた。散布濃度は 0.25%と 0.5%のものが顕著な抑制が見られた。之等の抑制効果を散布濃度と品種間差について、更に明かにするため、抽苔累積曲線もつて、第1図、第2図に示めて次に検討する。

2) 散布濃度の影響について、国分鮮紅大長の各濃度の抽苔累積曲線を第1図に示めた。曲線の立ち具合によつて抽苔の早晩を示すが、0.25%と 0.5%の濃度のものはゆるやかな立ち具合いで、抽苔が著しく晚い事を示す。それに2割程度の抽苔時期を比較して見ると、大体8日位抑えられている。国分鮮紅大長は効果の少ない品種であつてさえも、濃度によつて顕著な

品 種	区	総株数	抽苔株数	抽苔率	全 重	葉 重	根 重	葉 長
札幌太	無散布	225	185	82.2%	69.7	12.2	57.5	31.5
	0.05%	232	165	71.1	69.4	9.8	59.5	29.0
	0.1	237	180	76.0	59.5	10.3	49.2	28.7
	0.25	245	107	43.7	70.1	8.1	62.1	27.2
	0.5	235	96	40.9	55.1	7.2	47.1	26.7
国分鮮紅大長	無散布	150	140	93.3	69.7	21.6	48.1	42.7
	0.05	160	138	86.3	67.8	23.6	44.2	43.8
	0.1	152	140	92.1	69.7	22.8	46.9	37.4
	0.25	162	83	51.2	67.5	18.8	48.7	41.1
	0.5	166	79	47.6	66.4	17.3	49.1	34.1
中村鮮紅太	無散布	202	107	53.0	59.5	10.1	49.4	32.3
	0.05	219	108	49.3	57.5	11.8	45.7	35.1
	0.1	204	117	57.4	60.1	10.7	49.4	30.7
	0.25	198	47	23.7	55.7	7.4	48.3	23.6
	0.5	208	37	17.8	53.4	7.0	46.4	23.7
大型五寸	無散布	206	112	54.4	48.6	10.9	37.3	29.3
	0.05	199	110	55.3	40.7	11.5	29.2	31.8
	0.1	220	102	46.3	45.2	7.7	37.5	26.7
	0.25	207	33	16.0	44.7	5.3	39.4	19.5
	0.5	217	30	13.8	44.0	5.9	38.1	22.1

* 熊本縣農業試験場 寒冷地試験地

第1図 MII 30 撒布濃度による抽苔累積曲線

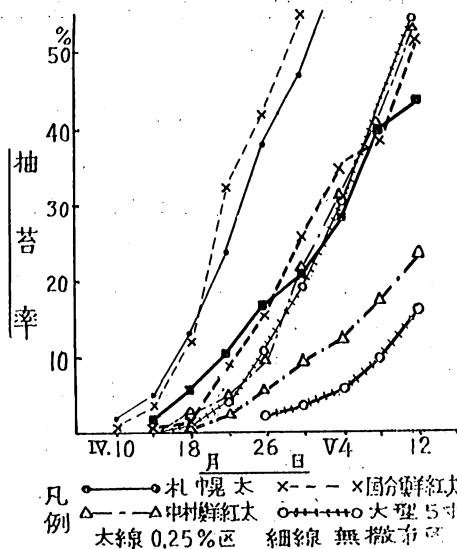


効果の差異が伺われる。この試験では、他の品種でも同じ傾向であるが、0.10%と0.25%の間に抑制効果の連続性が見られない、これは玉葱で MII 30 の濃度と撒布時期について、撒布濃度が晚い場合は薄い濃度の効果が少いと云う報告と考え合せて、撒布時期の遅れによるものと思われる。

3) 第2図は各品種の無撒布のもの、0.25%のものの抽苔累積曲線を図示した。MII 30 の撒布効果は晩抽苔品種の中村鮮紅太や大型5寸が曲線の立ち具合が非常にゆるやかで、2割程度の抽苔時期で比較してさえも15日以上の開きが見られる。また一方抑制効果の程度を無撒布区との開きについて比較すると、抽苔の早い品種は7-8日位、晚い品種は10日から15日位も抑えられている。しかし抽苔の早い品種が効果の少いのは撒布時期がそれ等の品種にとつて晚かつた事によつて起つたものでないかと考えられる。

4) 他の形質について述べるが、抑制効果の見られ

第2図 品種間別抽苔累積曲線



た濃度では葉の肥大生長が抑えられ、葉重、葉長、何れも小さく、側芽が多く発生した。根重には大して変化は見られず、また根肉についても、鬚の発現や木質部の硬化がなく品質は良好であつた。

5) 以上要約すると、MII 30 の 0.25%と0.5%の濃度では顕著な抑制効果が見られた。特に晩抽苔品種程その効果が著く10日から15日以上も抽苔が抑えられた。上記の濃度では葉は葉害を見られるが商品価値には支障なく根肉も良好であつた。なおこの試験では撒布時期が晚かつたように見受けられた。今後撒布時期について検討をするが、人参の花芽分化時期が苔の伸長期と余り変わらないと見られているので、葉の葉害根重の肥大や葉効の持続性から見て、年内に撒布するよりか、春先に撒布した方が有利と考えられる。